

授業科目	聴覚障害 I (概論)				
担当者	矢吹裕栄・山口忍			(オムニバス)	
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

聴覚障害学を学ぶに当たって必要となる基礎力を養う。その為に、聴覚の器官の解剖と機能を理解し、難聴と聴覚検査との関係を理解する。国家試験合格に必要な基礎理解を目指す。

■ 到達目標

聴こえの仕組みの基礎知識を習得する。

難聴のタイプ分類と聴覚検査法の基礎を習得し、検査結果から難聴のタイプを推定できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 基礎用語の確認
音とは何か、「きこえる」と言うこと。(矢吹)
- 第2回 聴覚器の解剖
外耳・中耳の解剖と機能 (矢吹)
- 第3回 聴覚器の解剖
内耳の解剖・機能 (矢吹)
- 第4回 前半のまとめと復習 (矢吹)
- 第5回 聴覚障害とは何か (矢吹)
- 第6回 難聴のタイプ分類 (矢吹)
- 第7回 聴覚検査法 1 (矢吹)
- 第8回 聴覚検査法 2 (矢吹)
- 第9回 聴覚障害の実態 (山口)
- 第10回 聴覚障害を来す疾患 (山口)
- 第11回 聴覚障害への対応 (山口)
- 第12回 補聴器の仕組みと適応 (山口)
- 第13回 人工内耳の仕組みと適応 (山口)
- 第14回 聴力検査の復習と結果のみかた (山口)
- 第15回 まとめ (山口)

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

学習内容が多くなるため、日々の復習が欠かせません。基本的事項の理解の積み重ねが重要な分野であり、基礎が疎かになるとその先の理解が難しくなります。その日のうちにその日の学習内容を復習する事が望ましいです。(矢吹)

■ 教科書

書名：聴覚検査の実態（改訂4版）

著者名：日本聴覚医学会 編集

出版社：南山堂

書名：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版

著者名：中村公枝 城間将江 鈴木恵子

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。毎回の積み重ねが重要なので極力欠席を避けるのが望ましいです。

■ 講義受講にあたって

中学高校の理科で習った音の性質を復習しておくとう理解が進みやすくなります。